

アーチェリー 関東学生リーグ
1部Bブロック男子
15年ぶり2回目の優勝



アーチェリーの関東学生リーグ戦(Bブロック)が3月27日から4月24日まで、慶大ほかで行われ、男子が15年ぶり2回目の優勝を遂げた。

50メートルと30メートルの2つの距離で競われるリーグ戦。初戦で強豪・早大、4戦目で昨年優勝の慶大を下し、全勝で迎えた最終戦の中大戦。下田岳史主将(経済4・西湘高)、山本泰志(経営3・大宮開成高)らを中心に正確に的を射抜き、高得点を重ね、146点差で快勝。見事に土つかずの優勝を決め、6月に行われる全日本学生王座決定戦への出場権も手に入れた。

久々の栄冠に宮原昭紘監督は「精神的に成長し、日ごろの練習の成果を発揮出来た。今年のチームは(専大史上最強とも言われた)15年前のチームにも匹敵する」と、喜びをかみ締めながら語った。

初の関東制覇を目指して挑んだ関東地区優勝決定戦(5月8日・東京国際大競技場)は、Aブロック優勝校・日体大に敗れたが、全日本学生での活躍に期待したい。

また、女子はリーグ戦(Bブロック)2勝3敗。順位決定戦で慶大に敗れ、4位に終わった。(久我 智也・文3)

レスリング JOCジュニアオリンピックカップ

稲葉が優勝—フリー55kg
矢野準優勝—グレコ84kg



4月23、24日の両日、JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権が横浜文化体育館で行われ、フリースタイル55kg級に出場した稲葉泰弘(経営2・霞ヶ浦高)が見事優勝。また、グレコローマンスタイル84kg級に出場した矢野将章(経済1・広陵高)も準優勝を果たした。

稲葉は 圧倒的な強さで勝ち進み、決勝戦でも相手にポイントを取らせず、力の差を見せつけた。「チャンスだと思っていたので 絶対優勝したい、という気持ちで挑みました」と語った。

ニューパワーの活躍に今後も期待したい。

(文・写真とも 清水 智之・ネット情報2)

卓球 関東学生新人選手権

男女ともダブルス準優勝

男子シングルス 江藤ベスト8



関東学生卓球新人選手権が4月22、23の両日、駒沢体育館で行われた。男子ダブルスで清水康充(商1・実践学園高)・池口健太(商1・柳川高)組が、女子ダブルスで杉本枝穂(文1・青森山田高)・堀部紗代(文1・土佐女子高)組がともに準優勝。男子シングルスでは江藤真伍(経営2・柳川高)がベスト8入りを果たした。

男子ダブルス決勝戦は小野・水野組(明大)と対戦。2セット連取されたが「1点でも、1セットでも多くとりたかった」(清水)という強い気持ちで挑み第3セットは圧勝。しかし第4セットを落とし、惜しくも優勝は逃した。

女子ダブルスの杉本・堀部組は第3シードで出場し、準決勝は3-0と快勝。今大会シングルス優勝の狭間と、中熊組(大正大)との決勝戦はフルセットまでもつれ込む接戦が続いたが、後半巻き返され2-3で惜敗。

1年次生は入学後初の試合で、この好成績。ルーキー陣に今後も目が離せない。

(橋本 麻未・経済2)

スキー部清澤選手に 「川島記念特別功劳賞」

ユニバ・スキー女子スーパーGで
日本人初の3位



1月にオーストリアで行われたユニバーシアード冬季競技大会スキー女子スーパー大回転で、日本人初となる3位入賞という快挙を成し遂げた清澤恵美子選手(経営4・歌志内高)に川島記念特別功劳賞が4月22日、贈られた。同賞は、在学中にオリンピック、アジア大会、ユニバーシアード大会等の国際大会で高位の成績を収めた選手を表彰するもの。

授与式後、「荣誉ある賞をいただき、うれしいです。立派な賞に恥じないよう、次のシーズンも結果を残したい」と決意を語った。

山岳部

北アルプスで錬成合宿

山岳部の錬成合宿(4/29~5/4)が北アルプスの涸沢で行われた。小沼堅司部長ら11人が参加し、新入生も含め雪上訓練を行った(写真は5月3日、北穂高岳東稜で)。



【ニュース専修2005年5月号16面】